

令和8年1月5日発行（第199号）

こうじえん 耕耳苑

いわてアグリ
ベンチャーネット
にも掲載中！

普及センターだより

宮古農業改良普及センター TEL：0193-64-2220 FAX：0193-64-5631
岩泉普及サブセンター TEL：0194-22-3115 FAX：0194-22-2806
いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



年頭のごあいさつ

宮古農業改良普及センター所長 安達雅則

令和8年の年頭に当たり、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年は、農業生産資材価格の高止まりによる農業経営への影響が長引いていること、記録的な高温・少雨など気候変動に伴う農作物・家畜等への影響など、農業を巡る環境は厳しい状況でありました。

農業は、世の中の経済状況や気象等の変化に敏感に反応する産業であり、生産者にとって好ましくない変化が大きければ大きいほど、経営に与える影響は大きくなります。普及センターは、この影響が出来るだけ小さくなるよう技術面、経営面で皆様のお役に立てるよう取り組んでいくとともに、地域の農業が次代へとつながるよう様々な施策に関係機関と連携して取り組んでいきます。

今年の干支は、「午（うま）」であり、午年には「物事が【うま】くいく」「飛躍する」「活力がみなぎる」といった、とてもポジティブな意味があるそうです。農業においても、昨年以上に何事も「うまくいく」よう、取り組んでいきますので、職員一同本年もよろしくお願いいたします。

「岩手県食の匠」に畠山和子さんが認定されました！

食の匠認定証書交付式が12月18日に盛岡市において開催され、田野畑村の畠山和子さんが「いもだんす」で認定証書を交付されました。

「いもだんす」は県北・沿岸地方の郷土料理で、厳寒期の1～2月に料理に使いにくい小さなじゃがいもを野外で一晩凍らせ、翌日熱湯に浸けて皮をむき、数珠つなぎにして約1週間流水でアクを抜き、軒下に吊るして乾燥させます。乾燥させたものは、「凍み芋」と呼ばれ、硬いスポンジ状になり、長期保存が可能になります。この「凍み芋」を粉から団子にして、汁粉にしたものが「いもだんす」になります。なお、田野畑村では一般的な丸い団子を「だんご」、平べったい形の団子を「だんち」、炊きやすいように親指と人差し指で中央部に凹みをつけた団子を「だんす」と呼び分けています（語源は不明）。

冷蔵庫や冷凍庫のない時代に、長期保存できるよう工夫した先人の知恵が詰まった郷土料理です。



認定料理の「いもだんす」
（数珠繋ぎにしたものが「凍み芋」）

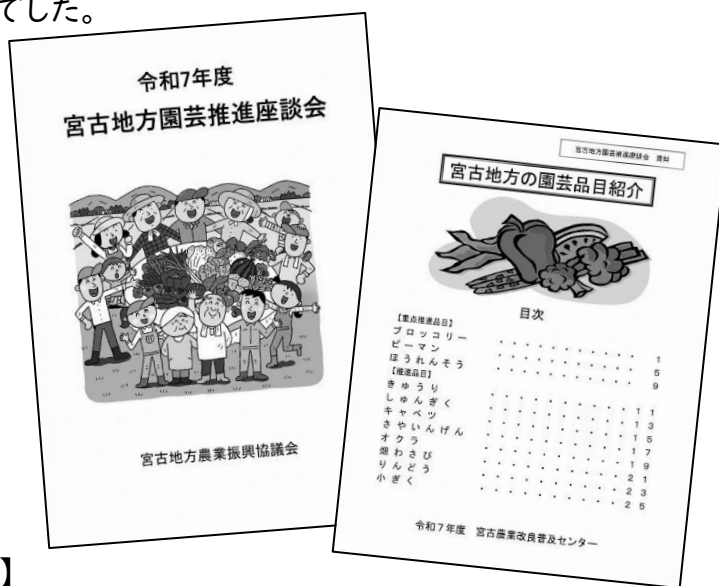


新規認定者の皆さん（上段中央が畠山さん）
【担当：佐藤】

園芸推進座談会が開催されました！

12月4～11日に、管内10か所で園芸推進座談会が開催されました。当日は、各市町村担当者の進行のもと、JAから令和7年の販売実績の報告、普及センターから気象・生育経過の説明や品目紹介を行いました。その後は新たに組みたい品目や今年の栽培に関する質疑応答・意見交換が行われました。令和7年は、例年にない高温・乾燥の影響が大きかったほか、カメムシ類の多発により、栽培に苦慮した生産者が多く、対策に関する質問や意見交換が活発に行われました。新規栽培希望者については、2会場で畑わさび1名、ピーマン2名の方が見られました。座談会への参加人数は46名と昨年と同程度の参加状況でした。

園芸推進座談会については、近年、高齢化の進展等により、新たな品目に関する取り組みが少なくなっています。そこで、座談会を品目推進のみではない新たな取り組みにしていくために、今後の方向性について模索の動きが見られています。現在、座談会のあり方について、生産者アンケートを実施するなどして、生産者の方々の意向を把握しつつ、今後の開催方法等について関係機関を含めて検討が進められています。



【担当：松浦】

宮古地方経営力向上研修会を開催

農業就業者の減少や高齢化等により労働力不足が進行しており、生産現場では労働力確保が喫緊の課題となっています。

そこで、新たな労働力の確保につなげることを目的に、農業分野でも近年全国的に利用が拡大しているマッチングアプリを使った「スキマバイト」の現状と活用事例について学ぶ研修会を、12月16日(火)に開催しました。

株式会社タイミー 社長室 一次産業グループ マネージャー 千葉 連理 氏を講師に迎え、宮古地方での「Timee」の利用状況を交えながら、詳しく御説明いただきました。

参加者からは、応募者がいるのだろうか？といった質問がありました。観光旅行がてらに訪れて「スキマバイト」をする人、半径50km以内ならば通う人等、多様な「ワーカー」がいること、青森県



三戸町でのりんご収穫に広範囲から多数の応募があった事例をあげ、農業と「スキマバイト」の相性の良さを御紹介くださいました。

普及センターでは、今後も皆様の農業経営力向上を支援していきます。

【担当：西田】

獣害防止対策の強化に向けた電気柵設置研修会が開催

シカやイノシシによる農作物被害が深刻化し、近年はクマ被害の増加も懸念される山田町。獣害対策の強化は地域農業の存続に直結する重要課題です。こうした中、12月5日、山田町船越（小谷鳥）圃場において、山田町認定農業者連絡協議会主催による電気柵設置研修会が開催されました。

令和7年度の補助事業により小谷鳥・大浦地区に恒久電気柵が導入されることを受け、岩手県農業普及技術課の中森技術主幹を講師に招き、獣害防止の理解促進を目的として行われました。

参加者は生産者、JA、関係機関など計23名で、研修では電気柵の種類や特徴、設置手順を実演しながら説明していただきました。恒久柵は冬季撤収不要で、参加者から「作業負担が減る」と好評でした。通電試験や施工精度の重要性も確認され、獣害防止対策への意識が高まりました。

普及センターでは、今後も地域の農業を守る取組を支援していきます。



電気柵で守る！獣害ゼロへの第一歩

獣害対策の基本は「捕獲」「侵入防止」「生息環境管理」の3つを総合的に行うことで、「侵入防止」には電気柵が有効です。電気柵は、動物が触れた際に電気刺激を与え、「近づくと痛い」ことを学習させ畑を守ります。

【設置のポイント】

- 1 **ワイヤーの高さ**： 獣種に応じて高さを決める（特に一番下が大事）。
- 2 **適切な電圧**： 5,000～8,000Vを維持し、24時間通電。
- 3 **管理徹底**： 下草刈り、ワイヤーの張り、漏電防止を徹底する。

電気柵は「簡易柵」と「恒久柵」の2種類あります。ポールやポリワイヤーなどを使う「簡易柵」は設置に要する労力が少ない一方で毎年設置・撤収する必要があります。単管パイプや高張力鋼線などを使う「恒久柵」は設置に要する労力が多いものの撤収が不要で、長距離にも対応できます。

設置後も下草刈りや漏電確認など定期点検を忘れずに実施しましょう。地域全体で連携して取組むことで、獣害ゼロを目指しましょう！



写真 恒久電気柵の設置例

表 獣種別ワイヤーの高さ（cm）

	20	40	70	100	130
ツキノワグマ・イノシシ	○	○	○		
ニホンジカ		○	○	○	○

【担当：戸田】

令和8年産の稲作に向けて

1 令和7年の生育経過

育苗期間の最低気温が高く推移し、全体的に苗が徒長気味になったほか、一部のハウスで細菌病やばか苗病が見られました。

7、8月は全体的に高温・少雨に推移し、渇水となった地域もありましたが、間断かんがいに取り組むなど、工夫しながら入水されました。

高温が続いたため、出穂期は平年より4日早く、刈取盛期は平年より8日早くなりました。

結果として、収量は平年並、品質は1等米が9割以上となりました。なお、主な落等要因は斑点米でした。

2 病害虫の発生状況

斑点米カメムシ類が平年よりやや多く、宮古市や山田町ではクモヘリカメムシが確認されました。今後、暖冬により越冬する個体が増加し、被害が出る可能性があります。

また、紋枯病やごま葉枯病の発生も平年よりやや多くなりました。

3 令和8年度の栽培に向けて

(1) 育苗管理

苗の徒長や病気の発生を抑えるため、ハウス内の温度に注意し、ハウスの開閉をしましょう。また、平置き育苗の場合は過度なかん水に、プール育苗の場合はプールの水深に注意しましょう(1回目は培土表面より下まで、2回目は培土表面より上に水が来るように)。

(2) 水管理

出穂後20日間に高温(概ね昼30℃以上、夜23℃以上)が続くと、白未熟粒が発生しやすくなります。水温を下げるため、間断かんがいを基本に、常時湛水状態にならないようにしましょう。また、高温の場合、入水は水温の低い夜に行いましょう。もし、水が豊富にある場合はかけ流しを、水が不足している場合は飽水管理を行い、土が乾ききらないようにしましょう。

(3) 病害虫防除

斑点米カメムシ類は畦畔雑草の草刈り(出穂の15~10日前)、穂揃い1週間後の薬剤散布(出穂期から概ね10日後)により防除しましょう。

紋枯病が発生したほ場では、翌年も発生しやすいため、紋枯病に登録のある箱施用剤を活用し、防除しましょう。薬剤散布による防除もお勧めです。

ごま葉枯病はマンガン資材や堆肥等による土づくりで長期的な対策をしましょう。

【担当:川原田】

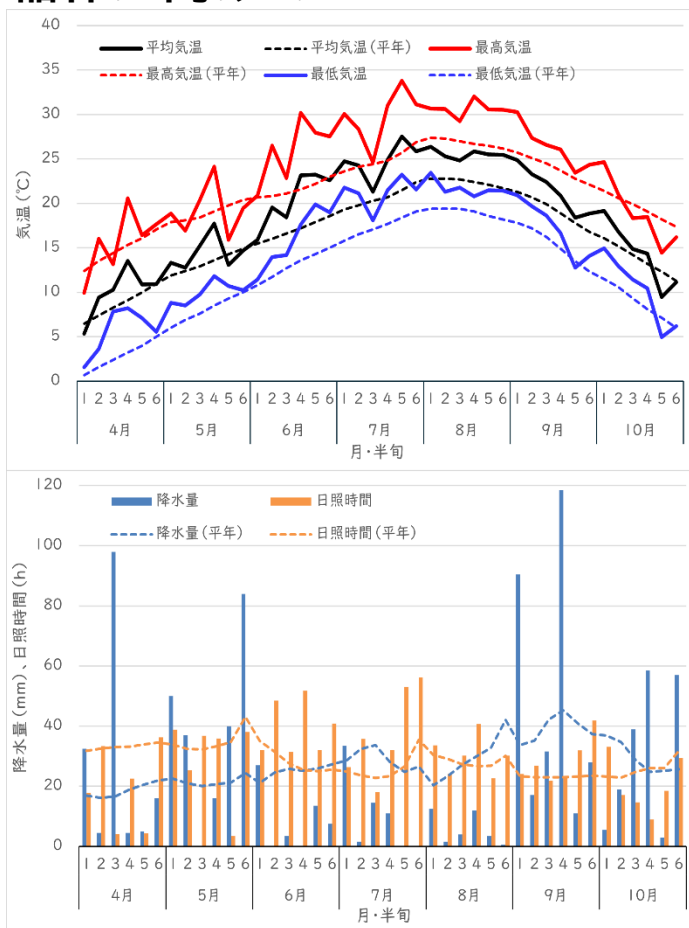


図 令和7年の気象の推移(山田アメダス)
(上図:気温、下図:降水量・日照時間)

(編集後記)

新年あけましておめでとうございます。今年も耕耳苑を通じて、地域の農業に関する情報や技術をお届けしていきたいと思います。今号が少しでも皆さまのお役に立てば幸いです。本年もどうぞよろしくお願いいたします。
(昆野(有))